

特集 ■ IT とリハビリテーション

近年、ますます進化を遂げる IT (information technology) とリハビリテーションについて、実際に IT を活用してリハビリテーションに役立てておられる各分野の方々に、その現状や課題、展望などについて、ご解説いただきました。

回復期リハビリテーションチームにおける IT の活用 (菅原英和氏, 7 頁)——

東京都立大塚病院の回復期リハビリテーションチームで実際に活用されているデータベースを紹介し、既存の電子カルテの限界や、手作りデータベースの利点・問題点などについても解説している。既存のシステムでは足りないものを、独自の技術で補う工夫の数々は、見習うべき点が多い。

認知機能評価と IT (渡辺 基氏ら, 15 頁)——

コンピュータを用いた認知機能検査の国内外の動向について総説し、著者らの病院で実際に導入されている CogHealth の概要や実状などについて解説している。一方で、著者は最も大切なことは、患者を人格ある一個体として全人的に捉えようとする姿勢が大切であると説いている。

IT を用いた認知リハビリテーション

—low tech と high tech 機器による認知症と記憶障害の支援 (安田 清氏, 21 頁)——

IT を用いた認知リハビリテーションについて、low tech メモリーエイドによる記憶支援から、high tech による情報支援まで幅広く紹介し、今後のこの分野の展望などについても解説している。著者らが実践している在宅生活支援が、今後広まることが期待される。

視覚障害者の IT 環境および盲ろう者への IT 支援 (杉田正幸氏, 27 頁)——

視覚障害者が用いる IT 機器について紹介し、リハビリテーションにおける今後の IT 機器の役割について解説している。一部、コミュニケーション障害のある盲ろう者への支援の現状も紹介している。障害者が生きやすい世の中の実現には、人的支援や心のバリアフリーが必要である。

リハビリテーション工学と IT (中山 剛氏, 33 頁)——

高次脳機能障害者による IT 利用の実態調査および IT を利用した高次脳機能障害者の支援機器の実際について紹介し、今後の IT を活用した支援の可能性について解説している。社会や家庭でもますます IT を利用した機器が導入され、障害者や高齢者の QOL が向上されることが期待される。